

タオパネ！シエラレオネ通信

「タオパネ！」とは、現地ティムニ語で「Join Hands!」という意味です。

第2号（2008年10月）

作成者：藤井 千江美

皆さん、こんにちは。

臨時増刊号で皆様にもお尋ねしましたプロジェクトのロゴが決まりました。同僚たちはもちろん、患者さん、村の子どもたちから大人の方たちまでいろいろな方たちにも意見を聞いてみた結果、ようやく決定しました。そして、10月4日、カンビア県保健関係者など約80名を招待して、授賞式並びに7月に日本で研修を受けた県医務官の帰国報告、並びに意見交換会を行いました。そして、参加者全員にはプロジェクトロゴ入りTシャツを配布させて頂きました。



授賞式・帰国報告会の様子



プロジェクトロゴ入りTシャツ

プロジェクトロゴ、そしてJICAの新ロゴも決定し、病院入口、街中、改修工事中の村の診療所などに設置するプロジェクトサインボードもようやく完成しました。



サインボード制作過程



完成したサインボード

今回はどのようなテーマで・・・と考えていたところ、宿泊しているフリータウンのホテルでそうじをしてくれる若い女性が部屋にやって来ました。以下、彼女と私の会話です。

「日本に帰るの？」

「カンビア県に戻るのよ。」

「えー！カンビアに！！カンビア県は好き？」

「好きだけど、行ったことあるの？」

「カンビア県の出身なの」

「じゃ、家族はまだカンビアにいるの？」と聞いたところで、彼女は次のような話を始めました。

両親と4人姉妹の3人が内戦の時に銃で殺され、たまたま買い物に出かけていた彼女と、ベッドの下に隠れた叔母だけは助かったようです。マーケットから帰ると家の中で5人が銃殺されていたようで、その後彼女は叔母と難民キャンプに収容されたそうです。今は、叔母と2人でフリータウンにいるようです。

カンビアはシエラレオネでも特に襲撃のひどかった3つの県の1つで、今でも至る所に襲撃された家が廃墟として残っています。それにしても、映画「ブラッド・ダイヤモンド」や本で読んだこのような話を直接聞くと本当にショックでした。先日も街中で片足のない若者たちを多く見かけ、聞くとやはり内戦で切断された人たちでした。

そこで、今回は、ここシエラレオネに赴任してから経験した、「心にグッときた体験」をお話させて頂きたいと思います。

カンビア県の内戦の跡



この写真のような内戦の跡が今もあちこちに残っています。りっぱな家がターゲットにされ、屋根やタイルなど、金目の物は全て奪われたようです。また、最近同僚たちからも内戦の時の話をしてくれるようになり、彼ら自身が実際に危険な目に遭っていたりや家族が殺された人もいます。

県病院の一角にある低栄養児収容センター

県病院の一角に低栄養児収容センターがあります。国境なき医師団(MSF)がカンビアで活動を行っていた時に運営されていましたが、MSFの撤退と共に閉鎖。しかし、今年5月にイギリスからのボランティア医師が低栄養児の深刻な状況を知り、県医務官と共に運営を再開した施設です。現在の収容可能人数は8人で、4人のスタッフで運営されており、現在MSFが運営していた時の収容規模(40人)を目標にユニセフのサポートを求めています。



低栄養児収容センター内部



5歳女兒(シビアケース)

コミュニティの方たちで建てられた村の診療所

カンビア県にある村の診療所56軒のうち約3分の2を訪れましたが、カンビア県の深刻な状況を目の当たりにすることになりました。各々の診療所が平均約10Km離れており、我々の車で約30分。その間の交通手段はなく、道路状態もかなりひどく、村で患者が出たときにとっても診療所まで運ぶことはできないと痛感しました。このような過酷な環境の中では、特に病気にならないように予防が非常に重要です。アフリカの病気の中には予防できる病気がたくさんあります。

でも、村人たちは病気に関する知識はほとんど持っていません。村の診療所の看護師さんと村人たちのコミュニケーションが一つの大切なポイントだと思いました。

ここでは、近くに全く診療所がなく、村人たちで建てた診療所を2軒紹介しますね。質素な建物ですが、全て村人たちの手作り。丁寧に草で編んだ壁に天井……。一つ一つに村人たちの心が感じられ、思わずウルウルしてしまいました。こういう診療所で働く看護師さんは、皆さん本当に一生懸命で、診療所の中の一部屋を住まいにした過酷な生活環境にもかかわらず、文句一つ言わず反対に村人たちへの感謝の気持ちをおっしゃっていました。そして、こういう村人たちの手作り診療所には、どこでも村人や子どもたちでいっぱいです。村の集会場も兼ねているようですね。



今月の新発見

西アフリカでも降水量が多いことで知られるシエラレオネ。特に8月は1年間の中でも一番降水量が多く、地元の方に言わせると今年は雨が少なかったらしいですが、それでもバケツをひっくり返したような雨がかなり降りました。雨季のカンビア県の様子をご紹介します。



首都フリータウンとカンビアを結ぶ主要幹線道路の状態



診療所への道



私の部屋がある JICA ゲストハウスの一角
(まだ紹介していませんでしたので、おまけです)